



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

6
No.622



まちひとと百景

無火災記録「1048日」継続中！

苫前町では5月26日現在で無火災が1048日となり、現在も継続している。

総合演習に参加した消防団員の皆さんは家業を終え、集まり、訓練を重ね、住民の安全と財産を守る使命を胸に、活動されている。

近年は、地震、台風などの自然災害が多発し、消防団などの役割も年々大きくなってきている。

私たちが自分たちの身は自分で守ることを日頃から意識するとともに、このように安全と安心を与えてくれている消防団の活動を応援していく必要があると感じた。

- まちなかサロン、本年度も実施へほか… 2
- 子ども会育成連絡協議会クリーン作戦ほか… 3
- 第53回苫前町商工会通常総会ほか… 4
- 社会を明るくする運動ほか… 5
- 健康ばんざい… 6
- 学びの情報… 7
- 介護保険ガイド… 8
- 国民年金… 9
- 住まいる情報…10～11
- ちびっこギャラリー…12

まちの人口

人口/3,598人(男/1,702人：女/1,896人)
世帯数/1,632世帯 (5月31日現在)

まちなかサロン、本年度も実施へ ～まちなかサロン実行委員会設立総会開催～



昨年のまちなかサロンの様子

4月26日(金)に役場大会議室でまちなかサロン実行委員会設立総会が開催され、昨年、高齢者や一般住民が気軽に集まり、民生委員や婦人会の方々と会話やゲームを楽しむことができた場として、毎週金曜日に苦前福祉センターシルバークラウドで開設された「まちなかサロン」が本年度も実施されることが決まった。

本年は5月17日(金)から毎週1回、昨年と同じ苦前福祉センターシルバークラウドで開催されることとなり、コーディネーターとして民生委員や苦前婦人会員などが参加者のお手伝いをしながら、11月29日までの約7ヶ月間、開設される。

交通ルールを守って、安全な通学、通園を！ ～町内保育園(所)・小学校で交通安全教室を開催～

雪も解けて、子ども達が自転車の利用などにより行動範囲が大きく広がるため、交通ルールの確認などを行う青空交通安全教室が各保育園(所)や小学校で開催された。

4月23日(火)には古丹別小学校(長谷川敏之校長)で開催。1・2年生の教室では、車の内輪差と車からの視界についての学習が、渡部工業株式会社(渡部和人代表取締役)の協力で行われた。

大型トラックがカーブするときは、前のタイヤと後のタイヤの走る位置が違うということを、パイロンを立てたコースで実際に見学。また、トラックからの視界がどのくらいまで見ることができているかを確認。子ども達も「見えづらいんだなあ」と実感していた。



5月1日(水)には苦前小学校(高典義校長)が開催。低学年は歩行体験、中高学年は自転車の走行体験を行い、市街地で行われたため、児童も真剣に安全確認を行っていた。

5月13日(月)には苦前保育園(青木久美子園長)の教室が開催された。

苦前駐在所の鳥羽久一所長が講師となり、交通安全の紙芝居を見た後、信号機の付いた交差点の横断の仕方、信号機の設置された室内コースで体験した。

また、5月15日(水)には古丹別保育園(川森のり子所長)の教室を開催。古丹別駐在所の藤田光昭巡査部長が講師となり、交通安全の紙芝居、信号機の付いた交差点の横断の仕方を学習した。



狂犬病予防のために ～畜犬登録、狂犬病予防注射を実施～

5月9日(木)・10日(金)に町内で畜犬登録と狂犬病予防注射が行われた。

畜犬の登録は、狂犬病予防法により、飼っているすべての犬が対象、登録する必要があるとともに、狂犬病予防注射も年1回実施することが義務づけられているもの。

5月10日(金)に古丹別地区で実施された畜犬登録と狂犬病予防注射に犬を連れて飼いが集まった。

ワンちゃんも危険な雰囲気を感じてか警戒ぎみ。獣医師の宇草哲夫さんが注射器を刺すと「キャン」と鳴き声を上げるワンちゃんもいて、飼い主が心配そうに撫でていた。

畜犬登録と狂犬病予防注射は10月にも実施されるが、詳細はチラシを回覧予定であるため、まだ済んでいない方は、忘れずに実施を。



自分の身は自分で守る！ ～旭親老人クラブで交通安全と悪質商法の出前講座を実施～



5月10日(金)に旭親雪管理センターで旭親老人クラブ(糸川啓士会長)による交通安全と悪質商法の出前講座が開催され、会員11名が参加した。

交通安全講座では、苦前駐在所の鳥羽久一所長より羽幌警察所管内の事故状況や道北方面でどのような事故が多いかの講話を行った。道北地区では65歳以上の方の死亡事故が多いため、「きちんと安全確認をして、安全な運転を心がけ、初心に返って慎重な運転をしてほしい」と呼びかけた。

また、悪質商法講座では、役場企画振興課職員より悪質商法の様々な手口や勧誘の方法、どのようにしたら悪質商法から身を守ることができるかを紹介。「交通事故も悪質商法も自分の身は自分で守ることが大切」と述べていた。

雪解け後のマチをきれいに！～子ども会育成連絡協議会クリーン作戦～



町子ども会育成連絡協議会（早川日出利会長）主催のクリーン作戦が5月11日（土）に開催、町内一斉にゴミ拾い活動が実施された。雪解けの後に街中に残った多くのゴミを拾って、まちをきれいにする目的で毎年開催されているもので、今年は14の子どもの育成者と子ども会会員など約200名が参加した。

開会式で挨拶や注意事項などを確認した後、それぞれの子どもの区域を会員と育成会員のほか、老人クラブ、婦人会の協力で多くのゴミが回収された。ゴミ拾いが終わった後は子ども会会員にご褒美のジュースが配布され、子ども達は早速おいしそうに喉を潤していた。

大戦の記憶は風化させない！～平和の鐘奉賛会による慰霊法要を開催～

山田裕一副町長も「幾多の困難を乗り越え、今日の繁栄となったのは、多くの犠牲によるものが大きい。戦争の記憶を風化させず、戦争は悲惨なもので絶対あつてはならないことを伝えていく必要がある」と述べた。

参列した方達は、世界の恒久平和を祈りつつ、平和の鐘を鳴らしていた。

平和の鐘奉賛会による慰霊法要が、古丹別緑ヶ丘公園内の平和の鐘慰霊堂で5月12日（日）開催され、留萌管内各地より約80名の遺族が参列し執り行われた。

服部秀行副会長は「戦後68年を経過し、先の大戦を知らぬ世代が多くなる中、多くの方が参列されることは、後世に伝えていくことになるため、お体を大切に参列していただきたい」と挨拶した。



5月12日（日）に第42回目となる古丹別緑ヶ丘公園さくらまつりが同公園内で開催された。

4・5月と気温が上がらず、桜の開花を待ち望んでいたが、緑ヶ丘公園内の桜の花は開かず、蕾のままの祭典となった。しかも、この日は朝から雨が時折落ちるなど、気温も上がらないなどのあいにくの天候の中開催され、人の入りも昨年の1千人と比べ大幅に減った。

さくらまつり実行委員会の渡部一男実行委員長と森町長の挨拶の後、苦前鱗萃会のおさこいでスタート。「航海記」や「よっちゃれ」などを、白い息を弾ませながらでダイナミックな踊りを披露した。



残念！雨に見舞われ、桜も間に合わず！



～第42回古丹別緑ヶ丘公園さくらまつり～

続いて近江垂矢さんの歌謡ショーでは、オリジナル曲や民謡など様々なジャンルを披露し、その歌唱力に大きな拍手がおこった。

カラオケ大会では、地元参加者はもちろん、留萌や札幌から参加した方も加わり、拍手とともに、おひねりが届く参加者もいて大いに盛り上がった。

また、会場の後では商工会女性部や古丹別商業部会などが出店し、そばやたこ焼きなどを販売していた。

参加者が少ない中でも、傘やカッパを着つつ、コンロから白い煙を上げ、焼肉を楽しんでいるようであった。



町商工会の新会長に前田久義氏を選任 ～第53回苫前町商工会通常総会～



5月17日(金)苫前町公民館で第53回苫前町商工会通常総会が、森町長や星野町議会議長、工藤敏郎道議会議員など来賓も出席し開催された。

菊地暢会長は「長引く不況と後継者不足等に伴う高齢化、購買力の町外流出などにより、課題が山積しているが、会員企業への経営支援などを行い、地域活性化を推進する。また、地域の実態にあった商店街を模索する基礎的調査事業を展開していく」と挨拶。

森町長も「商工業が確立しないと町もよりよいものになっていかない。調査事業が行われると言うことで、それぞれの項目などをチェックしていただき、よ



りよいものを作り上げてほしい。更なる商工業の伸張が図られるよう期待している」と祝辞を述べた。

この後、平成25年度事業で前年に引き続きプレミアム地域振興券の販売を行うなどを含めた議案6件すべてが可決承認された。

また、菊地会長の退任に伴い役員の補充選任が行われ、これまで副会長だった前田久義氏が新会長に選任された。

前田新会長は「責任の重さを感じている。商工業の発展のために尽力していきたいので、会員の皆様のご協力をお願いしたい」と選任の挨拶をした。

補充された役員は次のとおり。

- 苫前町商工会補充役員
- 会長 前田久義
- 副会長 千葉勇一
- 監事 秋山貴人

花を植えて、環境美化を ～平成25年度フラワースマイル事業～



5月25日(土)平成25年度フラワースマイル事業が開催され、苫前・古丹別地区あわせて約110名が参加し花植え作業を行った。

古丹別地区は例年どおり公民館周辺で、苫前地区は資料館前とあわせて苫前花愛好会(猪股正博会長)が昨年より整備している三角点スキー場の2箇所を実施した。

開会にあたり町コミュニティ推進協議会の斉数範章会長が「いろいろな世代が交流し、ふれあいながら花を植えてほしい」と挨拶、両地区あわせてマリゴ、ゴールドやベチュニアなど1千本の花を植えた。

三角点スキー場では、200本のお手製の風車に囲まれた畑で、様々な世代が協力し合い、交流しながら花植え作業を行っていた。

第50回留萌管内少年少女東西対抗剣道大会・第40回留萌管内少年少女個人選手権大会

- 個人選手権入賞者**
- 小学5年男子の部
第2位 竹橋 稜雅
 - 小学6年男子の部
第2位 清水 涼雅
 - 小学5・6年女子の部
第3位 大矢根千尋
 - 中学生男子の部
第3位 前川 幹哉

5月26日(日)苫前中学校体育館で第50回留萌管内少年少女東西対抗剣道大会・第40回留萌管内少年少女個人選手権大会が、留萌管内及び幌延町・豊富町などの約110名の少年少女剣士が参加、地元剣道連盟の前川幹哉くんの選手宣誓で開幕した。

大会は前半、管内個人選手権として8部門が行われた。また、後半に東西対抗戦として小平町以南を東軍、苫前町以北を西軍として試合が行われ、通算成績32勝20敗7分で西軍が勝利した。



地域社会貢献事業

～まちの施設を整備していただきました～

苫前小学校グランド芝の補修

有限会社新光ビジネス(西裕正代表取締役)が苫前小学校(高谷典義校長)グランドの芝の補修を5月2日(木)に地域社会貢献事業として実施した。

同校グランドは長年の使用と例年がない大雪により、芝の成育が悪く、まばらな状態であったため、6月上旬に予定されている運動会に影響が出ないかを心配していましたが、事業所の申し出により、成育の悪い部分が補修され、無事に運動会を迎えることができそうです。ありがとうございました。



「第63回社会を明るくする運動」が7月1日からの1ヶ月間で強調月間として運動が展開されます



■社会を明るくする運動とは？

すべての国民が犯罪・非行の防止と立ち直りについて考え、それぞれの立場で力を合わせて犯罪や非行のない地域社会を築こうという国民運動で、昭和26年7月から実施されており、今年で63年目を迎えます。

■皆さんの参加を

安全で安心な暮らしはすべての人の願いですが、テレビや新聞では毎日事件のニュースが報道されています。単に犯罪や非行を無くすには、警察などの取り締まりを強化し、過ちを犯した人を処罰することも必要ですが、立ち直ろうとしている人を社会で受け入れていくこと、犯罪や非行をする人を生み出さな

い家庭や地域づくりをすることもとても大切なことです。

そのためには一部の人だけでなく、地域のすべての人がそれぞれの立場で関わっていく必要があります。

「社会を明るくする運動」では、ポスターの掲示、新聞やテレビ等の広報活動に加えて、誰でも参加できる催しを行っています。イベントに参加したり、ホームページやこの記事を見たことなどをきっかけに、どうして犯罪や非行が起きてしまうのか、安全で安心な暮らしをかなえるために、今何が求められているのか、そして、自分には何ができるのかをみなさんと考えてみませんか。

■更生、保護活動を行うボランティア「保護司」

「更生保護」は、社会の中での立ち直りを導き、助け、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐ仕組みで、その活動には、「保護司」がボランティアとして支えています。

「保護司」は、犯罪や非行に陥った対象者が保護観察を受けると、その期間中、保護観察所の保護観察官とともに、対象者と面接して生活状況を調査、保護観察中に決められた約束事を守るように指導し、生活相談など社会復帰への手助けをすることが主な仕事で、本町にも次のとおり6名の保護司がいます。

野崎信輝さん 阿部俊一さん 村田正夫さん
檜森正春さん 加藤隆雄さん 森利男さん

本町では保護観察の対象となる方はいませんが、上記の6名の保護司の方々は、犯罪・非行の予防活動や地区祭典などによる環境浄化活動、研修活動に参加し事例検討を行うなどの活動を行っています。

羽幌地区保護司会 苫前支部

新規学校卒業者を対象とする求人申込はお早めに！

新規学校卒業者に対する求人申し込みの受付が次のとおり開始されます。

新規学校卒業者の採用を予定されている事業主の皆さんはお早めに求人申込をお願いいたします。

なお、採用にあたっては、本人の適性、能力等を中心とした公平・公正な選考をお願いします。

また、障がいのある方の選考についても、格別のご配慮をお願いいたします。

留萌公共職業安定所 (☎0164-64-0388)

●新規高等学校卒業者に係る推薦及び選考開始期日等

①求人申込の受理開始	6月20日
②求人者に対する求人票控えの交付	7月1日以降
③安定所受理の求人学校の学校への提示	7月1日以降
④他安定所への求人連絡	7月1日以降
⑤求人活動のための学校訪問開始	7月1日以降
⑥推薦開始	9月5日
⑦選考開始	9月16日
⑧採用内定	選考開始と同日以降



山火事注意！山の緑を守りましょう！

山火事や野火が多発する季節となりました。

山に入る際は火気の使用は極力避けるようにし、マナーを守って入山しましょう。



山では極力喫煙しないよう心がけタバコの投げ捨ては絶対にやめましょう。

緑を守るのも私達の使命です。



火事・救急は119番！

北留萌消防組合 苫前支署 TEL 64-2321
古丹別支署 TEL 65-4119

健康 健ばんざい
「私達の健康は私達の手で」
「食生活改善協議会」
 ◆ 今月の担当は奥村栄養士です ◆

* 6月は食育月間です

食育月間という言葉をご存知ですか。食育月間とは、食育を重点的にそして効果的に行い食育の一層の浸透を図ることを目的として平成18年から定められています。

苫前町では食育推進の担い手として、地域の方から構成される、苫前町食生活改善協議会（以下、苫前町食改）が様々な年代への食育活動はもろろんのこと、福祉活動も行っています。

* 苫前町食改とは

苫前町食改は、昭和63年に誕生し25年経ちました。現在の会員数は21名（平成25年5月現在）。養成講座を受講し修了証を受けて、会員となり活動します。

苫前町食改は、活動テーマ「心と体においしい食事を！」を掲げ健康作りの啓発普及のために活動を展開しています。また、留萌管内には当会を含め4つの協議会があり年に一度管内で交流研修会を開催しています。管内の推進員が集まり活動に関する意見交換や交流を深め、楽しく技能を高められています。

* 苫前町食改活動

苫前町食改では、主に3つの料理教室を開催しています。昨年度は毎日の暮らしから骨美人を目指すことを目的とした女性対象の「骨々（こつこつ）ヘルシー教室」、小学校低学年を対象に「おやこ料理教室」、男性も料理を楽しめる「男性料理教室」を開催しました。

また、施設へのボランティア活動として縫った雑巾を贈呈し、施設利用者との交流も行いました。町の保健事業であるフッククラブへの協力も行っています。

* 今年度の活動

今年度これからの事業予定は下のとおりです。今年度も、3つの料理教室を開催予定です。

日程や内容など詳細が決まりましたら、ポスター等でお知らせします。

教室への多数参加をお待ちしております。



平成25年度 事業予定

* 8月*
おやこ料理教室①
(8月3日)

留萌ブロック代表者会議

* 9月*

高齢者福祉活動

(高齢者施設訪問など)
食生活改善全道大会

* 10月*

留萌ブロック交流学習会
骨々ヘルシー教室

* 12月*

男性料理教室

* 1月*

新年交流学習会

* 2月*

おやこ料理教室②

Dr. 小野の処方せん
骨粗しょう症

骨粗しょう症とは「骨密度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患である」骨強度は骨密度と骨質の和である。骨粗しょう症は加齢によって腸管からのカルシウムを吸収する力が衰えること、骨の新陳代謝《壊したり(骨吸収)、作ったり(骨形成)のバランスが崩れること》により起こります。

日常生活ではカルシウムの摂取（牛乳、チーズ、ヨーグルト、ワカサギ、ししゃも、豆腐、小松菜など）、ビタミンK（納豆、野菜、わかめなど）の摂取が推奨されています。

また、適度な運動と日光浴も大事です。薬としては、ビスフォスフォネート製剤（骨吸収を抑える）、SERM製剤、女性ホルモン製剤（骨吸収抑制）、活性型ビタミンD₃（カルシウム吸収、筋力増加）、ビタミンK₂（骨形成促進）、カルシウム製剤などがある。



医療法人社団オロロン会 苫前クリニック
 理事長 小野 哲郎
 TEL 64-9070

平成25年度 MRIによる脳検診のお知らせ

本町では、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などの頭部の病変がないかを調べるため、MRIによる脳検診を実施しています。

脳の病気は、高齢者がかかるものと思われがちですが、働き盛りの若い人の発症も決して少なくはありません。本町でのMRIによる脳検診は、年1回の実施となっていますので、この機会に受診をしてみたいはかがでしょうか？

- 対象者 **平成25年度中に35歳から69歳になる町民**
 (生年月日が昭和19年4月2日～昭和54年4月1日までの方) **先着100名**
 ※平成23・24年度に受診された方は対象外

●検診日程・実施場所

検 診 日 程	実施場所
8月26日(月) 午前・午後	福祉センター
8月27日(火) 午前・午後	公民館
8月28日(水) 午前のみ	

●検査料金 5,000円

◆申し込み 8月6日(火)～8日(木)の3日間
 8:30～17:15までに下記へ申込みを

保健福祉課けんこう係 (☎64-2215)